

Q2 教育相談の開発的な側面，予防的な側面，問題解決的な側面とは，どういうものでしょうか？

学校における教育相談には，開発的な側面，予防的な側面，問題解決的な側面の三つの側面があります。

どの側面も児童生徒を援助していく際には大切ですが，問題や不適応が起こる前に援助していく，開発的な側面，予防的な側面の役割が今後ますます重要になってくると考えられます。

開発的な側面とは

すべての児童生徒を対象として，児童生徒が自分の能力を最大限に発揮して，各発達段階に応じた課題を達成しながら自己実現を図ることができるよう，継続的に援助することです。教科の学習や特別活動，総合的な学習など，学級，学校全体の教育活動を通して，児童生徒の成長を促進していきます。

予防的な側面とは

日々の児童生徒理解を十分に行い，問題が発生しそうな児童生徒に予防的に働きかけて，本人が主体的に自らの力で解決できるよう援助することです。そのためには，日常から児童生徒をよく観察したり，生活ノート等を提出させたりするなどして，授業時間以外の時間帯（休み時間，放課後，家庭など）で起きていることも把握するように心がけることが大切です。

また，児童生徒が一人で問題を抱え込まないよう気軽に相談できる体制を事前につくっておくことも大切です。そのためには，児童生徒と信頼関係を構築していくことが基本となりますが，併せて，相談箱の設置やスクールカウンセラー等との相談日の設定など，気軽に相談できるシステムを考えることが必要です。

問題解決的な側面とは

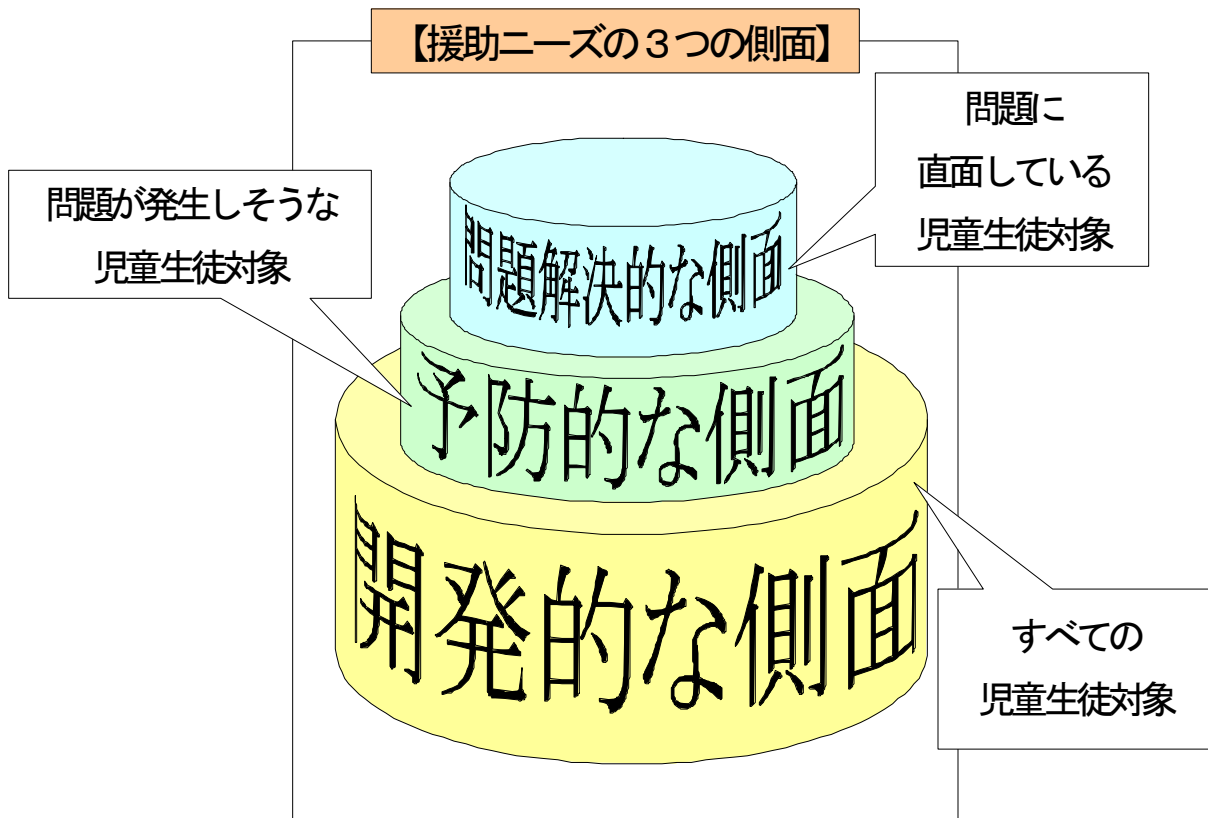
学校生活を送っていく上で，児童生徒は様々な問題に直面します。このような問題については，カウンセリング的なかわりを持ちながら，問題の解決や不適応状態からの回復を援助しなければなりません。

その場合は、本人の訴えをよく聴き、本人の気持ちを支えていくことが基本となります。また、本人だけではなく保護者を含めて関係する児童生徒からも情報を収集し、問題行動や不適応状態に陥ったきっかけや継続している要因を検討していく必要があります。

しかし、問題の原因が明らかになってもそれを取り除くことができるとは限りません。そういう場合には、本人のよきやうまくできていること、あるいは解決したい気持ちに焦点を当てて、自信ややる気を引き出しつつ、解決に向けた具体的な行動を援助していくことが必要です。

問題解決には、個人に対する援助だけでなく学級や家族などの本人を取り巻く環境へのアプローチも重要です。その環境づくりのためにも、チームによる教育相談の体制を構築することが大切になってきます。特に援助ニーズが大きい場合は、関係の専門機関（児童相談所、教育センター、適応指導教室など）と連携を図りながら、援助を進めることも必要です。

以上のことを図でまとめると、下の図のようになります。



例えば、予防的な側面での対象となる児童生徒の場合、その援助が本人にとって有効に働き元気を取り戻したとき、次は開発的カウンセリングの対象となります。また、援助が効果的でなく問題が深刻化したときは、問題解決的な側面での対象となると考えられます。

つまり、児童生徒が発達上の課題に取り組む上での援助ニーズは、連続線上にあって、常に変化していると考えられます。児童生徒の援助ニーズに応じて、三段階の側面での援助が必要であって、そのことが、一人一人の子供に適切に対応することとなり、児童生徒の成長発達につながっていきます。